



**北陸新幹線飯山駅周辺地区
都市空間デザイン計画策定調査報告書**



**平成18年3月
長野県飯山市**

北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン計画策定調査報告書

目 次

□本編

序章 計画概要

序-1 調査の背景と目的	序-1
序-2 計画対象地区	序-4
序-3 調査の進め方	序-8
序-4 調査体制	序-9

第1章 将来ビジョン

1-1 都市空間デザインコンセプト	1- 1
1-2 都市空間デザインの留意点・課題	1- 8
1-3 都市空間デザインの要所	1-14

第2章 土地利用計画

2-1 土地利用の基本的考え方と望ましい姿（土地利用ゾーニング）	2- 1
2-2 用途地域の提案と課題	2- 4

第3章 空間配置計画

3-1 動線・交通計画	3- 1
3-2 公共施設配置計画	3- 6

第4章 公共施設整備基本計画

4-1 駅舎及び駅前広場の基本計画	4- 1
4-2 駅周辺の公共空間づくりにむけて	4-35
4-3 民有空間との協働による街路空間づくりにむけて	4-41

第5章 民有空間計画

5-1 民有空間との協働による駅周辺空間整備の考え方	5-1
5-2 新幹線飯山駅周辺地区の民有空間建物のあり方	5-7

第6章 既存資源の活用計画

6-1 対象地区の地域資源活用方針	6-1
6-2 地域資源の現況と履歴	6-3
6-2 地域資源の活用イメージ	6-8

第7章 まちづくり基本計画

7-1 本章の位置づけとまちづくりについての考え方	7-1
7-2 新幹線飯山駅周辺地区のまちづくりの課題	7-2
7-3 まちづくり基本計画の策定にむけて	7-3
7-4 公共空間と民有空間の一体的な環境ガイドライン策定にむけて	7-3
7-5 飯山駅周辺土地区画整理事業権利者会との取り組み	7-6
7-6 まちづくり会所とその役割	7-8

第8章 実現化への方法

8-1 推進体制	8-1
8-2 事業スケジュール	8-3
8-3 都市景観コントロール制度・事業手法	8-4

終章 全体配置図・模型・イメージパス

終-1	全体配置図	終-1
終-2	全体模型	終-2
終-2	イメージパス	終-3

資料編

会議録編（別冊）

はじめに

飯山市は長野県の最北端の市であり、日本でも有数の豪雪地帯です。周辺を斑尾山や高社山、鍋倉山等に囲まれ、農村部を千曲川がゆったりと流れる自然豊かな田園都市です。このような地形条件や奥まった地理的条件、雪深さゆえもあって、文部省唱歌「ふるさと」や「朧月夜」の舞台となり、映画「阿弥陀堂だより」のロケ地ともなった“ふるさとの原風景”が大変色濃く残されています。その静謐な風景は、自然と共生した人々の豊かな暮らしの文化、正受上人の「人間を大事にする心、優しさ」を誇りにする気高く温かい心根等とともに、本地域の大変な魅力となっています。

この飯山市に、2014（平成26）年度末を目途に北陸新幹線が開通し、新駅が開設される予定となっており、建設工事も着々と進んでいます。新幹線飯山駅は中心市街地を含めたまちづくりの大きな契機となるとともに、スキー、温泉、森林トレッキング等を魅力とする北信濃地域、信越高原地域の旅の玄関口としても期待されています。

本調査は、このように飯山市街地のまちづくりに、そして広く地域の振興にインパクトを与える新幹線飯山駅の開設にあたり、周辺地区の都市空間デザインのあり方について検討を行い、基本計画として提示したものです。有識者や地元住民代表、鉄道建設・運輸施設整備支援機構および東日本旅客鉄道、国、県、広域連合、飯山市等の行政等によって構成される「北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン会議」を設置し、平成16～17年度の2年間に委員会4回・幹事会5回（合同会議含む）を開催するなど、精力的に進めて参りました。もとより鉄道施設や都市施設の整備、地域住民による住宅建設や各種事業展開など、多様な主体によるまちづくりにおいて、目指すべきまちの姿や大事にしていくべき地域特性に共通認識を持ちながら、まちづくりに対するニーズやそれぞれの取り組みの調整を図っていくことが重要であり、本調査は良好な環境の形成に向けてこうした意識や歩調をあわせていくことをねらいとするものです。本地域の特性である美しい山河や人と向き合う慎ましやかで優雅な姿勢を対象事業でも継承し、「風雅なまち」づくりを目指すこととし、その具体策について検討しています。

物質文明には幾分取り残された感があるものの、人と人とのつながりや暮らしの豊かさ、それらと一体となった風景といった本当に大切なものをずっと大事にしている本地域が、他にはない“飯山らしい”まちづくりを進めていくことを願うとともに、本基本計画がそれに資するものであれば幸いです。

末筆となりましたが、委員長をお引き受けいただいた中村良夫東京工業大学名誉教授をはじめ「北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン会議」委員・幹事各位のご尽力とご協力に関し、深く感謝申し上げます。

平成18年3月

飯山市・財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

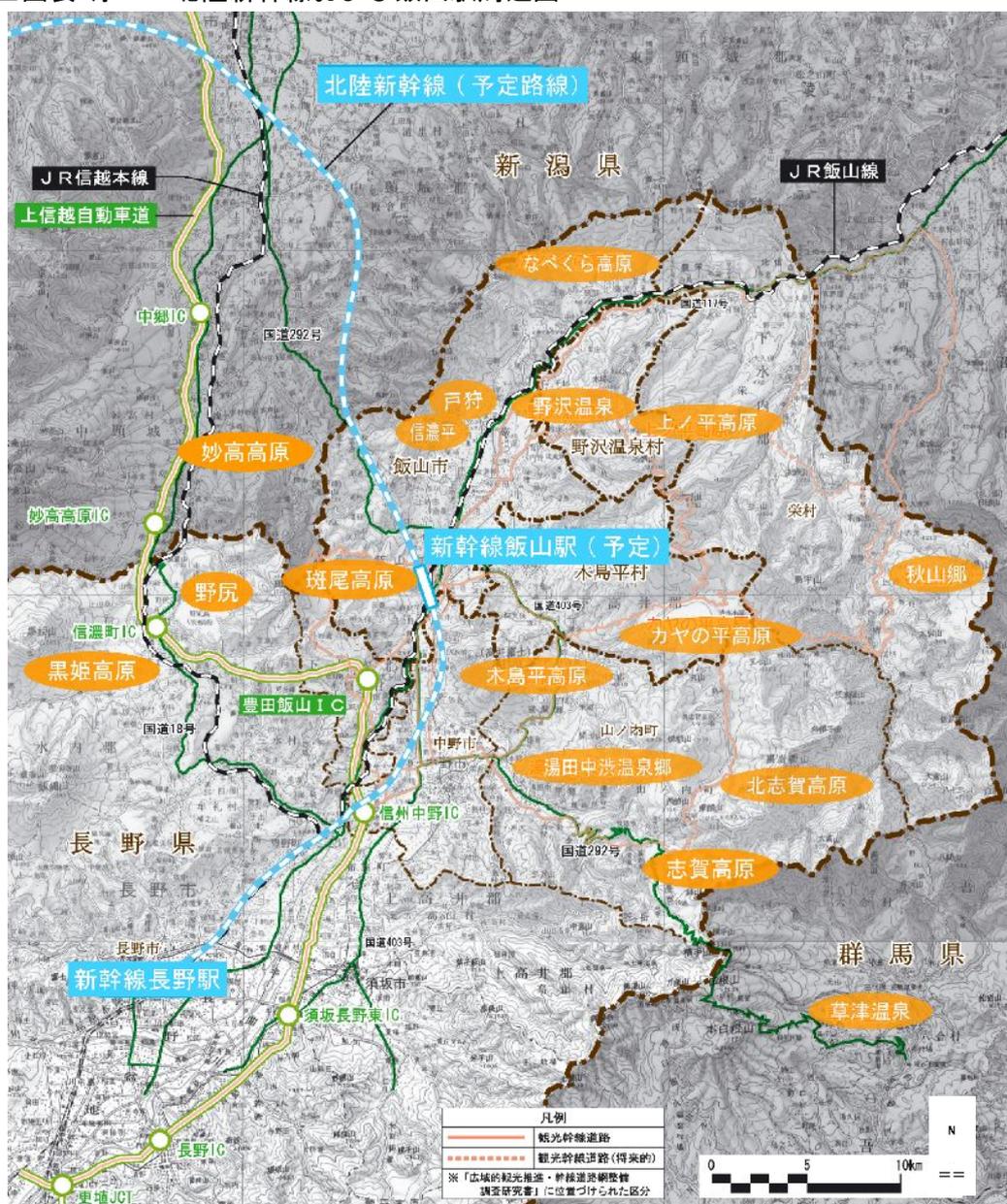
序－1 調査の背景と目的

1) 調査の背景

北陸新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設される新幹線鉄道で、長野、富山、金沢、福井等を経由して東京と大阪を結ぶ信越～日本海側の大交通動脈となる路線である。現在長野～金沢車両基地について、2014年度末の一体的な完成を目指して工事が進められている。

飯山市には、在来線飯山駅の南約 300mの地点に新幹線飯山駅が整備されることになっており、現在までに在来線飯山駅移設の決定、土地区画整理による事業手法と整備範囲の地権者合意、関連街路等の都市計画決定など、事業が着実に進んできている。

■図表 序.1 北陸新幹線および飯山駅周辺図



新幹線飯山駅および周辺地区は飯山市の中心市街地の一画をなし、鉄道を利用する市民や域外からの乗降客が集う場であるとともに、市民の暮らしの空間として、多様な生活の拠点として機能するものである。また周辺の信越高原エリアは、我が国でも有数の山岳高原リゾートが連なり、古くからスキー客や温泉客を集める観光基地を形成している。新幹線飯山駅周辺は、信越高原エリア等への観光ゲートウェイとしても期待が高まっている。

このような役割を担う新幹線飯山駅周辺地区は、住民にとっても、域外からの来訪者にとっても快適に利用でき、楽しい時をすごせる空間を構成するとともに、小京都とも呼ばれ、古い歴史と気品のある精神風土をもつ飯山市に相応しい、印象深い景観を形成し、それが契機となって市街地全体の環境・景観の高質化と賑わいの再生につながっていくような整備が望まれている。

2) 調査のねらい

飯山らしさを大事にしながら、交通結節点として、あるいは都市拠点として多様な要請に応えた新幹線飯山駅周辺地区の整備を図っていくためには、市民、地権者、交通事業者、行政等関係主体が、新幹線飯山駅周辺地区の価値や将来目標について共通認識を持ち、主体的かつ整合のとれた取り組みを進めていく必要がある。このため、飯山市では平成14年8月から平成15年11月にかけて、「新幹線まちづくり市民会議」を立ち上げ、駅周辺整備全体計画を市民と行政との協働で検討してきた。

本調査では、この市民会議報告における基本的考え方を踏まえつつ、専門的、事業的、技術的な見地も加えながら、飯山駅周辺整備全体区域の将来目標を定めるとともに、まちづくりの具体的なイメージや空間デザインについて検討し、今後市民、地権者、交通事業者、行政等がそれぞれの立場や役割分担で取り組むべき都市空間デザインの基本計画を策定することを目的とする。

都市空間デザインとは

駅や新しくできる市街地の空間構成について個性（風土性）を見据えながら

○景観形成の視点（美しいまちづくり）

○ユニバーサルデザインの視点（誰もが使い易く賑わいを生むまちづくり）

などに支えられた高質かつ魅力ある都市の姿を示すことである。

3) 調査の経緯と本年度調査の位置づけ

本調査の初年度である平成 16 年度（2004 年度）には、新幹線飯山駅周辺地区の諸条件を整理・分析し、対象地区全体の価値づけとまちづくりの基本的考え方の設定を行うとともに、事業を進めるに当たって留意すべき事項や今後検討すべき課題を明らかにした。また駅前広場および街路の基本構成等を検討し、それらに要請されている機能や環境の実現に関する適否、および周辺の山並み等飯山らしい景観の保続に関する適否について考察を行い、都市計画決定要件の妥当性を判断するとともに、今後のまちづくりプロセスについて方針を定めた。

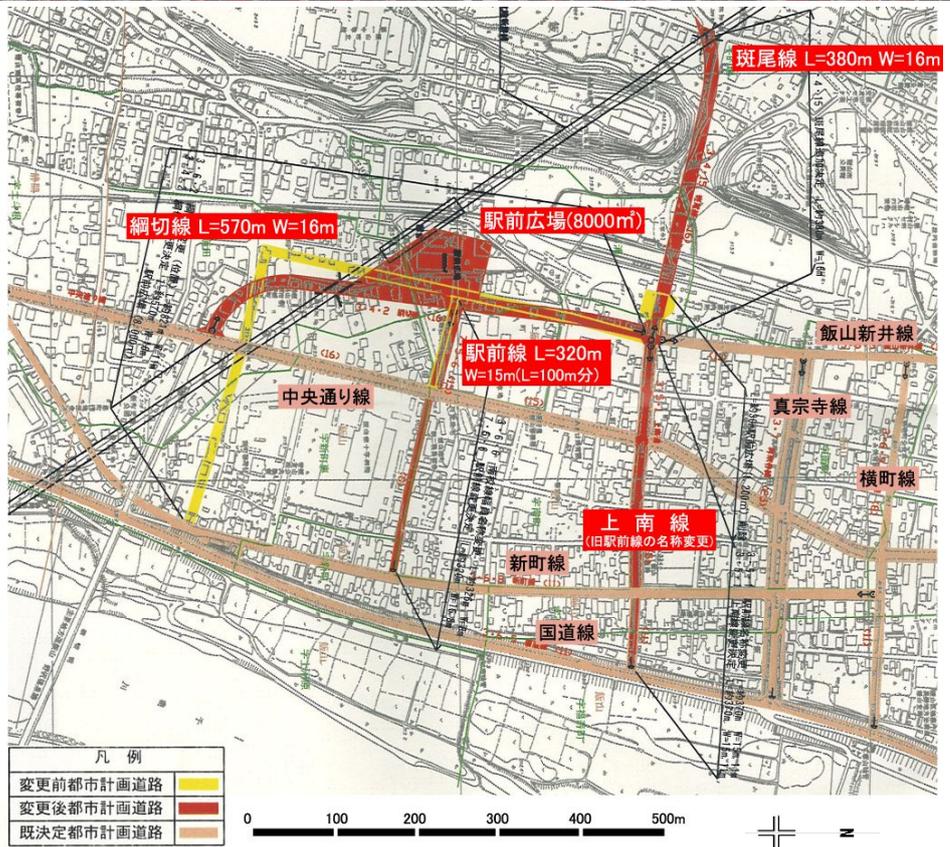
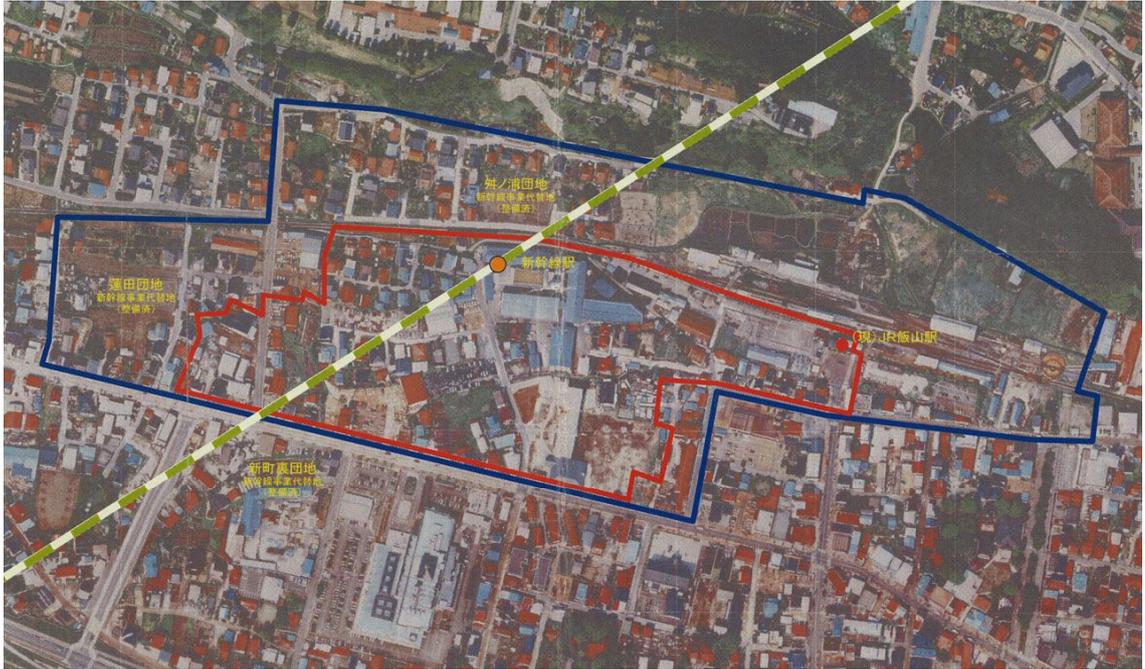
平成 17 年度（2005 年度）調査においては、本地区の都市空間デザインに関わる要素や諸条件についてさらに明らかにしながら、対象地区全体の動線や土地利用、空間配置のあるべき姿を定めるとともに、駅前広場や駅舎、および街路等公共施設については基本機能とそのレイアウトやデザインコンセプトを詳細につめていく。また民地を含めた地区全体のまちづくりの方向について、地権者や事業者との協議を踏まえて検討し、まちづくりを実際に始動させていく。さらにはその実現のための今後の推進体制を定め、都市空間デザインの基本計画書としてとりまとめを行う。

序-2 調査対象地区

本計画の対象地区は、飯山駅周辺土地区画整理事業予定区域（約 7.7ha）を中心とした駅周辺整備全体区域（約 20ha）とする。

■図表 序.2 調査対象地区

- 駅周辺整備全体区域(20ha)
- 区画整理事業予定区域(約 7.7ha)

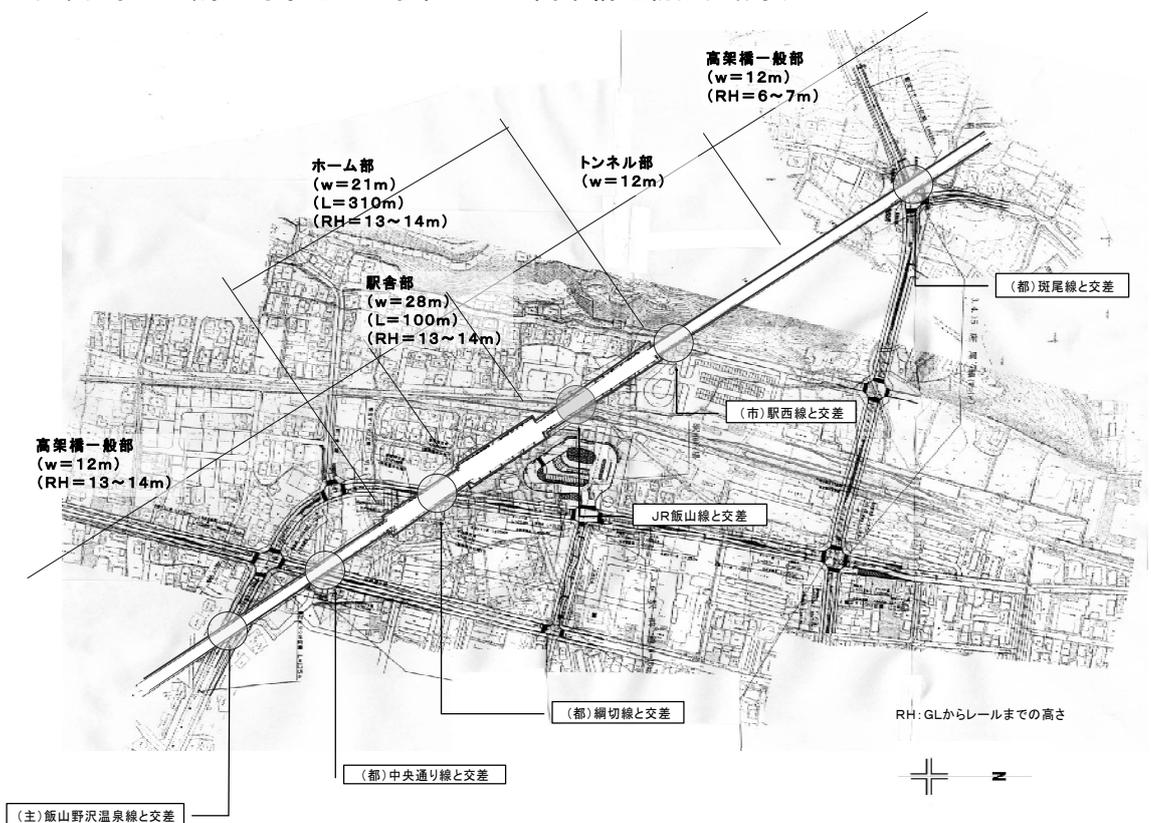


都市計画決定事項

対象地区における新幹線軌道は高架構造となり、図表 序.3 のような諸元で配置される。したがって新幹線飯山駅舎は高架下駅タイプで整備され、動線的には地上レベルで線路両側の往来が確保されるものの、高架構造物の壁面が連続して立ち上がるため景観的には分断されたり、建築デザイン的な工夫の余地が比較的乏しい、あるいは日陰対策が必要といった特徴がある（図表 序.4・6）。

また新幹線駅が現在の在来線駅から南へ約 300m離れた場所に建設されることを受けて、利便性だけでなく、生活の足でもある飯山線の存続・活性化やまちづくり（福祉・施設配置等）を鑑み、在来線駅を新幹線駅へ移設し、一体整備する計画となっている（図表 序.5）。

■図表 序.3 調査対象地区の駅舎および高架構造物計画概要

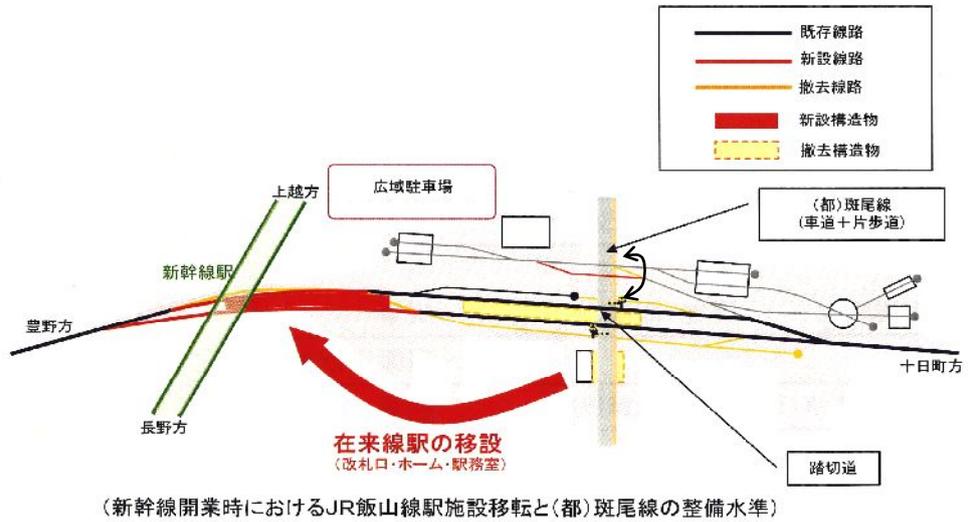


■図表 序.4 飯山駅の形態とその特徴

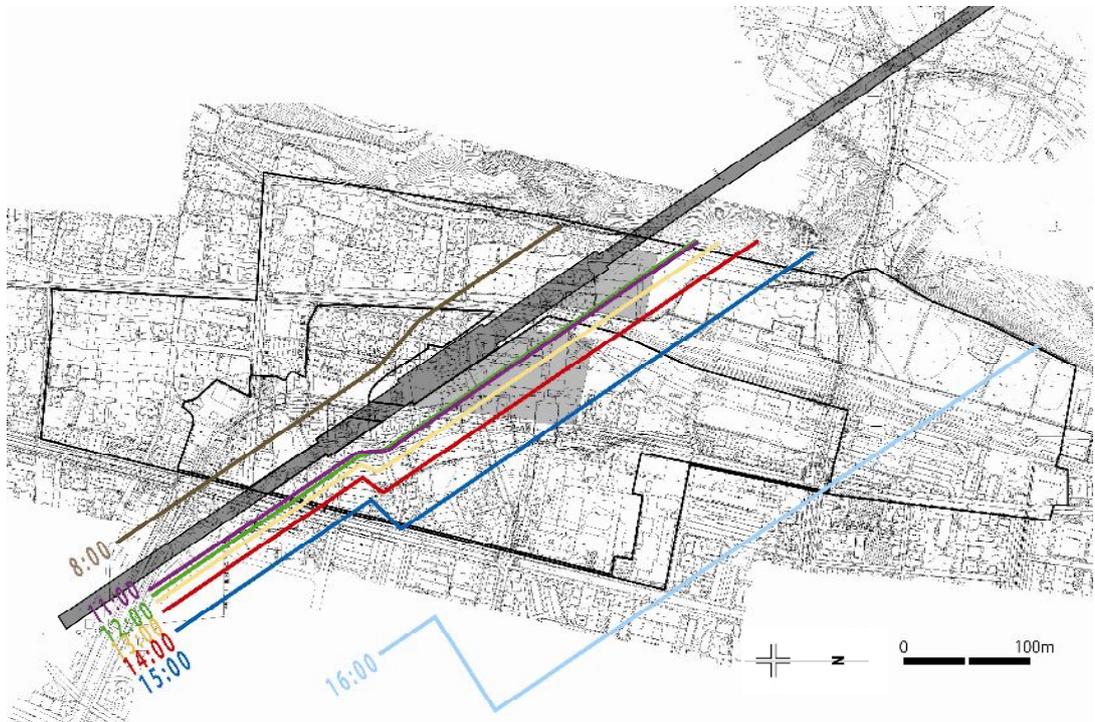
駅の形態タイプ	概 要	事 例
地平駅	駅本屋が線路またはホームと同一レベルにある地平の駅である。	山形新幹線新庄駅など 駅本屋と線路またはホームが同一レベルではないが、駅本屋を地平に設置した例としては、北陸新幹線の安中榛名駅がある。
高架下駅 (新幹線)	高架構造物の下に設けた駅であり、土地の有効利用や駅前広場から乗降口までの旅客動線を短くするメリットがある。新幹線の駅は、この形態で在来線と併設しているケースが多い。	北陸新幹線上田駅など 新幹線飯山駅もこのタイプになる。
橋上駅 (在来線)	線路を跨ぐ自由通路(跨線橋)に接続して、線路上空に駅本屋を設置したもので、橋上タイプとすることにより、駅の表・裏の一体的整備が図られる。	北陸新幹線軽井沢駅、佐久平駅など 在来線飯山駅はこのタイプ

形 式	地 平 駅	高 架 下 駅	橋 上 駅
都市計画視点	・駅は分断された街の片側と連続する ・街が分断される場合がある	・駅は連続する街の流れと一体化できる ・都市景観上の配慮必要	・街と駅は直線的に連続しないが徒歩による通行は可能 ・都市景観上の配慮必要
効率的配置	・表口、裏口が発生する	・ラッチは1箇所可能	・ラッチは1箇所可能
保 守	・容 易	・防水対策等の配慮	・保守面積多くなる場合がある
旅客の動線	・駅本屋付きホームは、交通弱者にとっては良好 ・駅本屋外ホームは昇降を伴う	・昇降を伴うが、昇降のいずれか1回で済む	・ペDESTリアンデッキにより、道路交通との分離が可能 ・昇降を伴う
旅客以外の動線	・昇降を伴う	・昇降を伴わないため街路から連続できる	・昇降を伴う
計 画 性	・用地に合わせて自由に計画できる	・駅部高架計画の初期段階から駅計画を入れておく必要あり	・駅部柱の位置が線形へ直接影響するため、その整合が平面計画上のポイントとなる
滞留スペース	・工事費に直接影響	・高架橋が必然的に空間を生み出すため、スペースは確保できる	・工事費に直接影響
関 連 事 業	・用地があれば良好	・高架下のため、計画上の制約があるが必然的に空間が確保されている	・面積確保が高価となる場合がある

■図表 序.5 在来線（JR飯山線）飯山駅の移設の考え方



■図表 序.6 鉄道高架構造物による日陰図

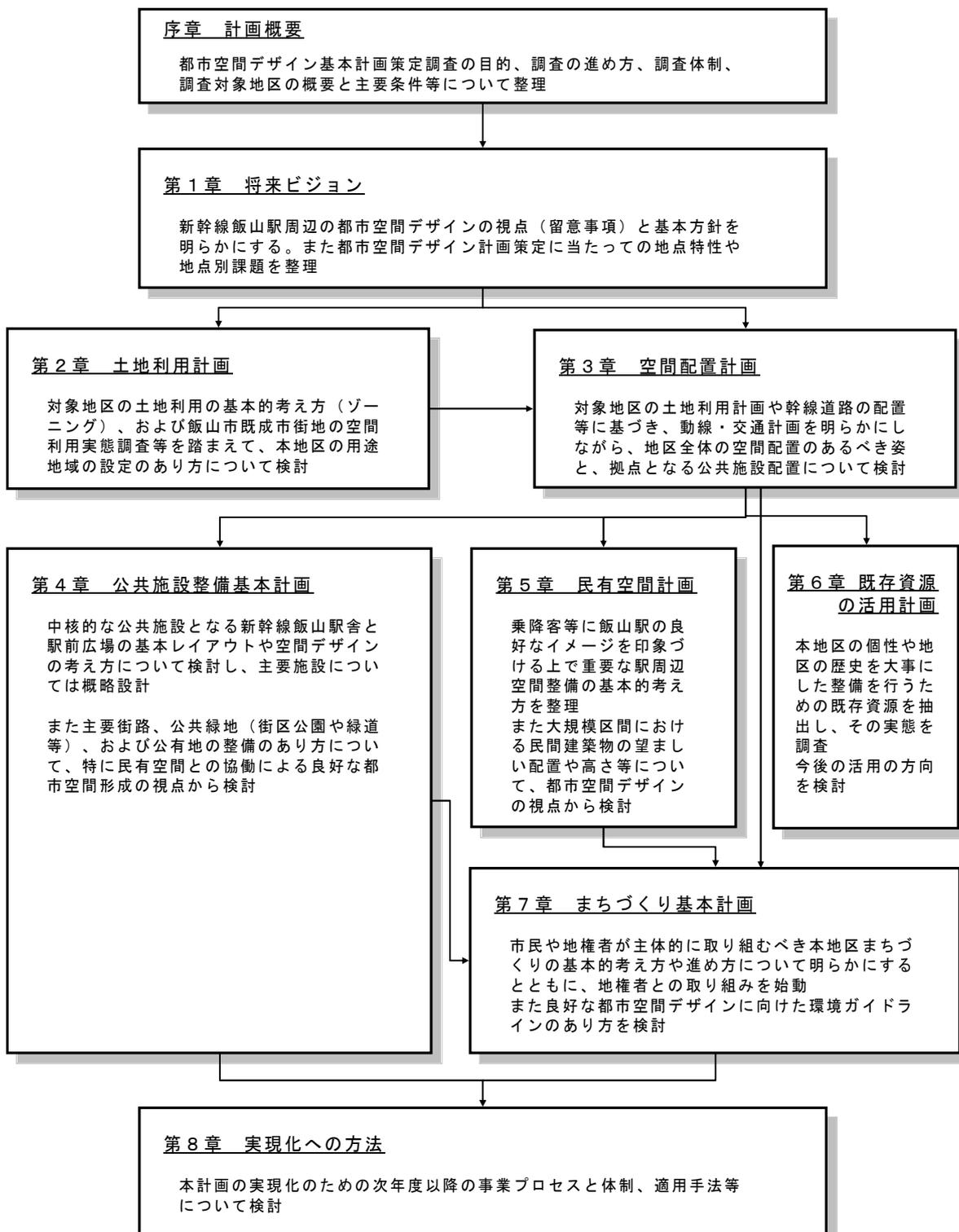


高架部 H=16m（防音壁上部）、駅舎部 H=25m（屋根上部）と仮定し、冬至の日の各時刻の日陰線を表示したもの

序－3 調査の進め方

本調査は以下のような調査項目とフローにしたがって進める。

■図表 序.7 調査フロー



序－4 調査体制

「北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン会議（委員長：中村良夫東京工業大学名誉教授）」を設置し、審議を行う。委員会委員および幹事会メンバーは次のとおりである。

北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン会議 委員名簿

(H17.4現在)

(敬称略)

役職名	職名	氏名	備考
アドバイザー		野 沢 太 三	

(敬称略、順不同)

役職名	職名	氏名	備考
委員長	東京工業大学名誉教授	中 村 良 夫	
副委員長	立教大学教授	安 島 博 幸	
委員	東京工業大学大学院教授	齋 藤 潮	兼幹事長
〃	芝浦工業大学教授	中 野 恒 明	
〃	国土交通省関東地方整備局 建政部都市整備課長	(東 智 徳) 新 屋 千 樹	
〃	国土交通省北陸信越運輸局 企画部企画・情報課長	(高 田 公 生) 八 木 貴 弘	
〃	長野県北信地方事務所長	(松 尾 仁 雄) 古 坂 和 俊	
〃	長野県飯山建設事務所長	(丸 山 文 哉) 山 崎 賢 一	
〃	(独)鉄道建設・運輸施設整備機構 鉄道建設本部北陸新幹線建設局次長	豊 原 正 俊	
〃	東日本旅客鉄道(株)長野支社総務部長	伊 藤 悦 郎	
〃	東日本旅客鉄道(株)上信越工事事務所次長	渡 部 保 利	
〃	飯山市議会新幹線等交通対策特別委員長	(沼 田 喜 一) 坪 根 繁 喜	
〃	飯山商工会議所会頭	小 林 仁	
〃	北信広域連合助役	小 林 貫 男	中野市助役
〃	飯山市助役	井 出 澄 夫	

()は前任者

北陸新幹線飯山駅周辺都市空間デザイン会議 幹事名簿

(敬称略、順不同)

役 職 名	職 名	氏 名	備 考
幹 事 長	東京工業大学大学院教授	齋 藤 潮	兼 委 員
幹 事	東京工業大学大学院助教授	真 野 洋 介	
〃	地 元 識 者	山 口 満	元信州大学工学部 社会開発工学科講師
〃	長野県企画局交通政策課主任企画員	(秋 山 優 一) 花 岡 徹	
〃	長野県土木部都市計画課技術幹	(三 井 宏 人) 倉 島 明 一	
〃	長野県北信地方事務所建築課長	(小 沢 慎 一) 竹 内 功	
〃	長野県飯山建設事務所 管理計画課技術幹兼課長	(保 谷 真 司) 小 池 厚	
〃	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部北陸新幹線建設局工事第二課長	平 出 廣 和	
〃	東日本旅客鉄道(株)長野支社 総務部企画室長	(岩 井 正 明) 溝 井 宗 一	
〃	東日本旅客鉄道(株)上信越工事事務所 開発調査室長	内 山 和 之	
〃	(社)長野県建築士会飯水支部	西 條 勝 洋	市民会議委員
〃	飯山市景観形成推進協議会副会長	大 高 修	市民会議部員
〃	信州・福祉住環境ネットワーク事務局長	仲 條 晴 子	市民会議部員
〃	飯山市建設水道部長	月 岡 寿 男	

()は前任者

なお実質的な検討作業は、齋藤潮東京工業大学大学院教授を座長とし、真野幹事、山口幹事、地元住民代表幹事、飯山市、東京工業大学研究室および小野寺康都市設計事務所、ラック計画研究所、財団法人都市づくりパブリックデザインセンターから構成されるワーキングコアを組織し、機動的に行った。